

8・27中村辰夫氏虐殺事件から29年

## 中村・松寄両氏の墓参りに参列

遺志を継ぎ、総団結方針貫徹を約束誓う

8月27日、故中村辰夫氏の命日に合わせ、中央本部・本部青年部9名が埼玉県本庄市にあるお墓を訪ね、ご冥福をお祈りしてきた。

今後、二度とこのような痛ましい事件が発生しないよう、そして、私たちが“当たり前”労働運動を堂々に行なえるよう、総団結方針の貫徹を墓前に誓ってきた。



中村辰夫氏墓参

### 8・27事件とは

JR貨物労組結成時に本部書記、その後本部教宣部長を歴任された中村辰夫氏は、1993年8月27日未明、夫人と共に埼玉県の自宅で何者かに襲撃され、殺害された（夫人は重傷）。

明らかな殺人事件であるにも関わらず、警察によるまともな捜査は行なわれず、犯人不明の未解決事件のまま現在に至っている。また、当時マスコミは何の根拠もなく中村氏を『過激派』であると、襲撃者不明のこの事件を『内ゲバ』（仲間内による事件）であると報道した。

一見組合とは関係のない殺人事件のようにも思えるが、こうした報道が重ねられることで、JR貨物労組は『過激派』であり、内部で組織破壊が行なわれていると世間に印象付けることになる。これにより、組織外からの印象の悪化だけでなく、組織内の不団結が深まってしまう恐れがある。

これに対して、当時の貨物労組では事件の経過、疑問点、事件の背景、今後の取り組み等を、「職場の隅々、組合員の一人一人」まで意思統一をはかる。その際に「具体的な事実に基づいた議論を、自分自身の言葉で語り合うこと」が徹底され、外部から入る「怪情報」に惑わされないよう注意を促した。

現在、全国的に議論が進んでいる総団結方針。青年部では、全国の各級機関において、職場討議資料、この件に関する青年部、関東地本の見解等の読み合わせを行なってきた。

人物の関係が複雑で、全体像を把握することが大変困難ではあるが、関東だけの問題ではなく全国の問題であり、団結力（組織力）は労働組合の力の源である。

**私たちと家族の生活を守るために、職場の隅々まで議論を  
行き渡らせ、意思統一を勝ち取っていかうではないか！！**

中村氏のお墓参り後、同県東松山市にある故松寄明氏のお墓にも訪れた。

労働組合の団結力の要素である「量」と「質」を維持・向上していくためにも、先達が残した知識・経験を学び、実践していくことを誓ってきた。



JR貨物労組青年部

松寄明氏墓参